

## 第11回雑誌スクープの裏側

2006年6月27日

講談社 吉田健二

### ● 自己紹介

1968年生まれ。早稲田大学教育学部国語国文科卒業後、92年に講談社入社。隔週刊ビジュアル雑誌『VIEWS』（後に月刊化）に配属。94年写真週刊誌『FRIDAY』に異動。同誌では主に事件班に所属。01年総合週刊誌『週刊現代』に異動。年金問題取材チームでジャーナリスト岩瀬達哉氏と連載『年金の悲劇』を担当。04年4月『彼女こそ未納です 江角マキコ「国民年金」CMの茶番！』記事を担当。同記事で04年雑誌ジャーナリズム大賞スクープ賞、雑誌ネット大賞報道部門賞を受賞。06年『FRIDAY』に異動。現在は芸能班デスクを務める。

### ● 雑誌記事の多くのスクープは社会に変革のきっかけを与えてきた

04年雑誌ジャーナリズム賞を受賞した記事

★「NHK紅白プロデューサーが制作費8000万円を横領していた！」

（週刊文春7月29日号）

→NHK会長更迭 受信料不払い化へ

★「やらせ現場スクープ撮 白骨温泉は着色されていた！」

（鶴飼克郎、週刊ポスト7月23日号）

→源泉かけ流しが温泉選びの基準のひとつへ

★「江角マキコ『国民年金』CMの茶番！」（週刊現代4月3日号）

→年金未納を問題視するきっかけになり、政治家の未納告発、社会保険庁改革のきっかけに

### ● 週刊ポストの白骨温泉は別としてNHKや社会保険庁には記者クラブが存在する。なぜ新聞ではなく雑誌が日常的に取材している新聞やテレビを出し抜けるのか。

★ネタモトの違い

・年金報道について新聞やテレビの主な取材先

厚生労働省記者クラブに所属し、厚生労働省年金局を取材することで年金制度の仕組みや見通しを取材する。または年金制度に詳しい専門家を取材し、法案について賛否両論の意見を取材する。

⇓

結果、官僚が準備した年金制度の問題点や改革法案の範囲を逸脱した報道をしにくい。雑誌の場合、記者クラブには入っていないため、広報担当や各団体の幹部の会見などは入れない。新聞やテレビとは違った視点、より深い記事、生々しい記事が求められるため実際に年金行政に携わっている現場の職員を内部告発者として確保する必要がある。

⇓

結果、新聞とは違った視点の記事を作ることができる。逆に言えば、内部告発者のいない記事は新聞や他の雑誌をなぞっただけの平板なものになりがち。

★週刊現代 04年『江角マキコ年金未納』の記事の場合

・内部告発者の正体は？

記事が出てから約3ヶ月経った毎日新聞は次のように報じている。

2004年07月17日(土)00時31分

### <社保庁情報漏えい>職員328人が目的外閲覧 (毎日新聞)

国民年金に絡む個人情報と社会保険庁から外部に漏えいした疑いがある問題で、社保庁職員328人が業務目的以外に個人情報を閲覧していたことが分かった。この問題で厚生労働省は真野章・社保庁長官を訓告にするなど16日付で21人を処分し、今月中にさらに計約500人を処分する。

閲覧していたのは、社会保険業務センター(東京都)の職員が11人、残り317人は全国の25の社会保険事務局と156の社会保険事務所にも所属しており、個人情報の管理が広範囲でずさんな状況が浮かび上がった。

16日付の処分は、指導監督責任として真野長官を訓告、霜鳥一彦・社会保険業務センター所長ら5人を厳重注意とした。真野長官は給料月額10%を1カ月分返納する。閲覧したセンター職員11人とその監督者4人は厳重注意とした。317人と監督者の計約500人については今月中に厳重注意などの処分を行う。

閲覧を確認した大塚義治事務次官は、「一人ずつ面接して調査したが、漏えいについては全員が否定した」と話し、任意調査の限界を示した。また、時期や誰の情報を見ていたかについては明らかにしなかった。

この問題では、女優の江角マキコさんや福田康夫前官房長官らの国民年金の加入データなどが週刊誌に報じられ、坂口力・厚労相が「社保庁のどこかで誰かが見て流す以外にない」「江角さんの件については何人もの人が(業務目的以外で)アクセスしているのは間違いない」と発言していた。

社保庁は国会で情報漏えい疑惑を追及され、5月12日付で内部規定を見直し、業務目的以外での個人情報データの閲覧禁止を明文化した。再発防止策として、個人情報データにアクセスできるカードを担当者ごとに発行し管理責任の明確化を図るとしている。【玉木達也】(毎日新聞)

★ 閲覧を確認された職員はウソを言っていない。閲覧した職員は週刊現代に情報を漏洩していない。また情報を漏洩したとも思っていない。

情報を漏洩したのは閲覧したのとは別の職員。しかも記事が出る直前に聞いたのでは怪しまれるため、時間を置いて記事にしている。

● 内部告発者を守るために

★ 世間でよく言われる誤解

①「週刊誌は情報を買っている」の誤解

週刊現代やFRIDAYには連日のようにタレコミ電話がかかってくる。その多くが「芸能人の情報があるんですけど、いくらで買ってくれますか？」

基本的には情報はカネでは買わない。

<理由>

- ・ カネを欲しがらる人物はカネのためにウソをつく可能性が高い。芸能人との2ショット写真など写真を撮った状況などでウソをつく可能性が高い。
- ・ カネで情報売る人物は、こちらの情報を別の人物にカネで売る可能性が高い。
- ・ 講談社をはじめとして政府や官僚批判を繰り返す出版社は、日常的に国税庁の査察が入る。内部告発者にギャラの支払いをすると、すべて当局に筒抜けになる可能性が高い。

②「週刊誌の記事はウソばかり書いている」の誤解

週刊誌批判の多くは匿名コメントを多用している。

この匿名コメントの多くがウソではないかと批判される。

たとえば「秋田小1児童殺害事件」などでも秋田県警捜査関係者が登場し、地元紙にも書かれていないような詳細な供述を書いている。

また、政治記事などでも「全国紙政治部記者」などの肩書きで記事中に登場し、さまざまな解説を加える。

これらのコメントはウソか？

↓

コメントの内容はウソではない。しかし、必ずしも匿名の肩書きは正しくない。その理由は内部告発者や情報提供者の保護

たとえば、容疑者の親族や配偶者などが週刊誌のインタビューに応じることがある。その際、インタビューに応じたことを明記できればいちばんいいが、匿名を条件に取材に応じることがある。そんなときに捜査関係者などのコメントにすることが多い。

スカイプ発表

# 彼女こそ 江角マキコ

**保険料納付は国民の義務**  
——こつこつPRする彼女自身が  
払っていない。国民をバカに  
するのでもいいかげんにしろ!



ふざけるな

# 未納です

# 国民年金

# CMの茶番!

## 将来、泣いてもいいわけ?

前科のCMが、国民年金の未納を茶番にしたのは遺憾ない。税金を払って国民年金に加入しているにもかかわらず、国民年金の未納を茶番にしたのは遺憾ない。税金を払って国民年金に加入しているにもかかわらず、国民年金の未納を茶番にしたのは遺憾ない。税金を払って国民年金に加入しているにもかかわらず、国民年金の未納を茶番にしたのは遺憾ない。

### これでは誰も払わない

「国民年金がもらえなくなるかも、って言ったの、誰？」  
女優の江角マキコが若い男性に居丈高に詰め寄る。男性は口ごもって困る。続いてへいま納めていけば、きちんと受け取れる」と、ナレーションが続く。

こんなCMが、昨年11月から約1カ月間、テレビのプラウソ管から大量に流された。

ポスターも大量に配布された。立て膝は片腕を付けてこちらをにらむ江角マキコと、「将来、泣いてもいいわけ?」という脅し文句。その下には「納めない」と、もらえない国民年金。「いま支える。だから、将来、支えてもらえる。」

「保険料納付は、みんなの義務です」といったコピーがついている(写真)。

これらは社会保険庁が作った広告だ。CM放送回数39

13回、ポスターは2万9600枚も刷られて全国にまかれたので、誰も一度くらいは目にしたことがあるだろう。

社会保険庁が国民に恫喝まがいのキャッチコピーを投げつけたのには、理由がある。国民年金の保険料の未納者が年々増え続けているからだ。98年度に76・6%あった納付率が、99年度74・5%、00年度73・0%、01年70・9%と減り続け、02年度には62・8%までダウンし史上最悪となった。

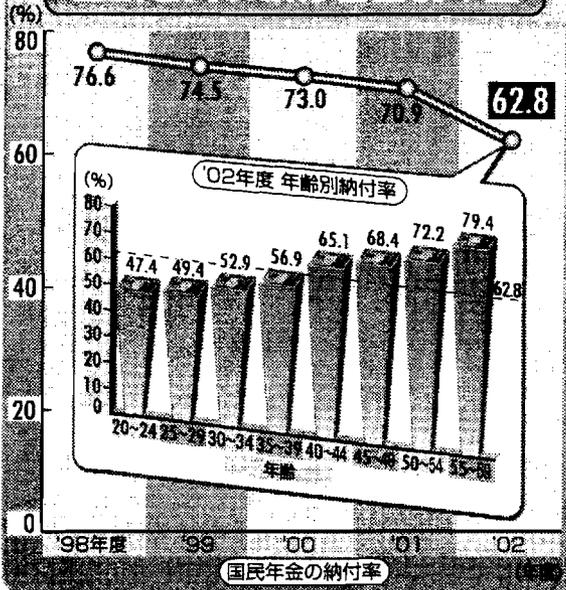
特に未納が目立つのが若年層。20代前半の納付率は47・4%、後半は49・4%で、とも

▲江角マキコはこのままでは年金をもらえない

# 社会保険庁!

【グラフの見方】折れ線グラフは年度別の納付率の変化。毎年下がり続けている。棒グラフは'02年度の納付率で、どの年代が払っていないかを示す。若い世代ほど納めていない

### 信頼を失い続ける国民年金



に5割を割り込んでいます。30代前半は52・9%、後半が62・8%には達していない。平均を上回るのは40代前半の65・1%から上の世代。20代、

30代は、まさに壊滅的である。焦った厚生労働省は昨年8月、国民年金対策本部を設置した。未納対策の柱は大きく分けて二つ。ひとつは保険料を納めやすい環境作り、もう

「気つけドリンク」  
「シヤキツと」  
「この一本！」



●強心生薬+プロキシフィリン・タウリン・ビタミンB1を配合!  
●気つけ(気力・意識の減退の回復)に効果!  
●仕事、パソコン等のしすぎで、気力が衰え気味の人の気つけ・どうき・息切れに

気つけ・どうき・息切れ  
**救心内服液**

コオウ・ロクシウ・センソ配合  
●救心製薬株式会社  
〒166-8533 東京都杉並区和田1-21-7  
(ホームページ) <http://www.kyushin.co.jp/>

江角を起用した国民年金PRは、こうした広報活動の環境として行われた。投じられた広告費は総額3億8000万円。ところがこの宣伝には、信じがたい大問題があったの

### 加入手続きさえしていない

ひとつは保険料納付意識の徹底だ。厚生労働省が作成した『国民年金納付実績と今後の収納対策』では、へ年金制度の意義・役割、さらに保険料納付の有利さについて正しく理解してもらおう中で、保険料納付は国民の義務であるという意識の徹底周知を行い、次のような対策を講ずるとして、強制徴収の実施、年金広報の強化などを挙げている。

小泉首相も未納対策は緊急課題だとしている。3月16日の参院予算委員会でも、未納者の対策についてこう述べた。

「社会保険庁と税務署が連携を考えているが、踏ん切りがつかないようだ。未納者を少なくするためにどうすればいいか、連携をとってもう一度真剣に検討するよう指示する」

①確定申告の際の保険料支払証明書提出を義務付けることと、②未納者リストの税務当局への貸し出しの二つを実行することで未納者を減らすというわけだ。

だ。社会保険庁の幹部が告発する。「実は江角さん本人が年金(掛け金＝保険料)を払っていません。もともと、今回のCMはひどい評判

でした。「何様のつもりだ」とか「いくらもらえるかの説明もしないで、何がきちんともらえるんだ」といった抗議が、社会保険庁本庁だけでなく各社会保険事務所に殺到しました。その上、PRに起用した江角さん自身が、保険料を払っていないことが表沙汰になったら大変なことになる。職員は決して外部には漏らさないように、クギを刺されていました」

「将来、泣いてもいいわけ?」と問い掛ける本人が、実は未納者で泣くはめになるとはブラックジョークそのものだ。江角に近い人物も、「確かに彼女は国民年金の保険料を払っていない」と前置きして、内実をこう話す。

「彼女は国民年金の保険料を払っていません。ただ、'87年

# 江角マキコ 国民年金 CMの茶番!

から89年の2年間、厚生年金の保険料は払っていたはずで

す。彼女は高校卒業後に日本たばこ産業に就職して、実業団バレーボールの選手として活躍していましたからね。その間は会社員として強制的に厚生年金に加入させられてい

る。その後、彼女は肩を壊し、友人の勧めでモデルに転身した。本当なら日本たばこ産業を辞めた時点で国民年金に加入しなければならぬんだけど、実は国民年金加入の手続きさえしていないんです。も

ともと年金に頼るタイプではないし、興味はゼロ。彼女が悪いのではなく、彼女みたいな意識の低いタレントを使った社会保険庁が悪いんです

この人物によると、江角は彼女が出演したテレビドラマ『シムムニ』や年金CMのイ

メージそのものの性格だという。続きを聞こう。

「モデルになってすぐにブレイク。その後は女優でも成功して仕事は順調だから、老後の生活に不安を持つわけがない。96年に結婚した写真家の桐島ローランド氏とは9ヵ月で別れ、去年、フジテレビ社員のディレクターと再婚した。サラリーマンと結婚した

妻は、保険料を払わなくても給付が受けられる第3号被保険者になれるが、収入制限がある(一定以上の収入があると認められない)。彼女はデビューして以来ずっとCMやドラマに出演している。だから収入制限に当然引っかかる

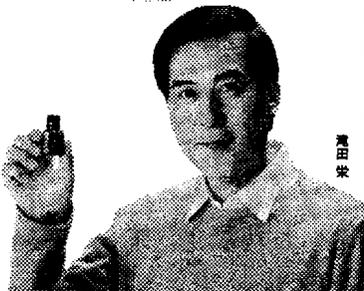
第3号被保険者になれるのは、年収が130万円未満の妻だけだ。昨年は国民年金P

Rの仕事だけでなく、フジテレビで放送されたドラマ『マルサ!!』に出演していた彼女の年収が130万円未満とは考えにくい。彼女も保険料を払わなければならないのだ。

国民年金保険料を払わない芸能人は、なにも江角だけではないようだ。芸能評論家の肥田正明氏が語る。

「芸能人で国民年金を払っている人は、よくて半分くらいでしょう。国民年金に加入する20歳で保険料が払えるほど収入のある人は少ないし、住所も不安定だから住民票は実家に置きっぱなしという人も多い。住民票が実家なら納付書も実家に送られ、本人は知らない。また、売れてしまえば40年間かけて年間80万円程度しか給付されない国民年金などバカバカしくなる」

そろそろ  
救心にしませんか。



年齢と共に目や身体が疲れやすくなるように、心臓も疲れやすくなっています。心臓の機能が低下すると、どきや息切れといった症状を普段の生活の中で感じやすくなりますが、そんなときには「救心」がお役に立ちます。救心は、生薬の効き目で心臓の働きや呼吸機能を円滑にして「どき」や「息切れ」を改善します。また頭がボーッとしたり、気力がイマイチの時の「気つけ」にも、ぜひ救心をお試しください。

どき・息切れ・気つけ



●お求めの際は(救心)とご指名ください。

●救心製薬株式会社

〒166-8533 東京都杉並区和田1-21-7

(詳しくはホームページで) <http://www.kyushin.co.jp/>

●資料・試供品(形状見本)贈品

ハガキに①試供品名②ご賞の雑誌名③〒住所④氏名⑤年齢を明記の上、弊社お客様相談室まで。

前出の社会保険庁幹部も、肥田氏の指摘にうなずく。

「芸能人のほとんどは個人事業主なので、国民年金に加入する義務がある。しかし、実際には未納者が多いですね。プロ野球選手、Jリーガーなども個人事業主だけど、加入率は驚くほど低い。有名人で

まともに保険料を納めているのは力士ぐらいのものですよ。彼らは日本相撲協会から給料をもらっており、協会の厚生年金に加入している。給与から保険料が天引きされている

から保険料が天引きされている。給与から保険料が天引きされている

から保険料が天引きされている。給与から保険料が天引きされている

から保険料が天引きされている。給与から保険料が天引きされている

から保険料が天引きされている。給与から保険料が天引きされている

から保険料が天引きされている。給与から保険料が天引きされている

から保険料が天引きされている。給与から保険料が天引きされている

から保険料が天引きされている。給与から保険料が天引きされている

から保険料が天引きされている。給与から保険料が天引きされている

から保険料が天引きされている。給与から保険料が天引きされている

から未納者がいないのです。医師や弁護士なども納付率が非常に低い。医師や弁護士は生涯にわたって高収入が見込める。国民年金などあてにする必要がないからです」

芸能人の多くが未納者だとしても、よりによって国民年金のPRに未納者であるタレントを起用していいわけがない。これでは国民はバカバカしくなって、年金の掛け金をますます払わなくなる。社会保険庁はなぜ、こんな愚かな選択をしたのか。

「自分分の年金は自分で払う」

「江角さんを起用した理由

「江角さんを起用した理由

「江角さんを起用した理由

「江角さんを起用した理由

「江角さんを起用した理由

「江角さんを起用した理由

「江角さんを起用した理由

「江角さんを起用した理由

「江角さんを起用した理由

## あきれ物も言えない回答

社会保険庁年金保険課に質した。

「江角さんを起用した理由

「江角さんを起用した理由

「江角さんを起用した理由

「江角さんを起用した理由

「江角さんを起用した理由

「江角さんを起用した理由

「江角さんを起用した理由

週刊現代から増刊号誕生! 3.25発売 帰ってきた鈴木亜美 旬のアイドル5大袋とじ あのスクープ・グラビアが1冊になった! 500円(税込)

週刊現代から  
増刊号誕生!

31  
3  
25  
発売  
1冊に  
帰ってきた鈴木亜美ほか

3  
25  
発売

1冊に  
帰ってきた鈴木亜美ほか

旬の  
アイドル

5大袋とじ

500円

「起用を決めたのは誰か?」

「社会保険庁の広報委員です。社会保険庁次長を筆頭に各課の課長で作っている組織です。コンペを行い、広告代理店が持ってきたPR案の中から、江角さんの案を選びました」

「江角さんが保険料を払っていないとの内部告発がある。」

「えっ……(絶句)。誰から聞いたんですか?」

「彼女が払っていることをどうやって確認したのか。」

「うーん、払っていると聞いてます」

「本当に確認したのか。」

「昨年6月の契約時に、(江角の所属する)事務所を通して確認しています。きちんと払っているということでした」

「社会保険庁はなぜ独自に調べなかったのか。」

「個人情報なので勝手に調べるわけにはいかなかったのですね」

「本人の許可を得たうえで、端末で納付記録をなぜ調べなかったのか。」

「それは思いつきませんでした。週刊現代さんから提案

いただいたので、早速検討させていただきます」

「起用したタレントが保険料未払いだと国民の信頼を失うとは思わなかったのか。」

「はあ、確かにおっしゃる通りです。われわれとしては事務所が払っていると言っていたもので……」

「江角が所属している芸能事務所は社会保険庁に本当に「保険料を払っている」と断言したのだろうか。保険料の支払いの有無を彼女が所属する事務所に文書で問い合わせた。」

本誌の質問文書は事務所から担当した広告代理店に、次にCMのキャストینگを担当した会社にもたらい回しされた。キャストینگ会社の担当者は、こう言うだけだった。

「いろいろ相談した結果、社会保険庁さんのほうに確認していただきたいということになりました。事務所のほうでは答えられません。社会保険庁さんと広告代理店の話し合いの結果、そうしようという契約になっていますので」

社会保険庁に再度問い合わせても、事務所サイドが「保険料を払っていると言った」

と主張して譲らない。結局、社会保険庁も所属事務所も、

江角が国民年金の保険料を払っていることを確認していない。お互いに責任をなすりつけあうだけだ。

本誌で年金官僚の腐敗を追及し続けてきたジャーナリストの岩瀬達哉氏はこう話す。

「江角さんの事務所は、CMの話が来たら仕事だから受けるでしょう。責任は国民を恫喝してまで保険料を払わせようとするCMを制作しておき

## PRの必要もなかった

「そもそも、国民年金PRや強制徴収を行わなければいけないほど、国民年金財政は逼迫しているのか。」

「いや、国民年金の財源は十分にあり」と証言するのは、旧厚生省で年金局数理解課長を務めた坪野剛司氏である。

坪野氏は国民年金制度が設立したときに旧厚生省に入省し、年金制度の財政計算を行う年金数理解課を歩んできた。

91年に総理府社会保障制度審議会の年金数理解を経て退官。現在は年金について評論活動を行っている。

ながら、まともなチェックをしていなかった社会保険庁にあります。

年金制度の信頼回復を本気で考えているのなら、こんな単純なミスを犯すわけがありません。保険料未払いのタレントを使って保険料を払えと恫喝する一方で、未納者から保険料の強制徴収を実施している。場当たり的としか言いがたない行政です。われわれ国民がどうして納得できるものではないかもしれません」

坪野氏が続ける。

「国民年金制度は45年前の59年につくられたが、その時点から保険料納付率は6〜7割と想定していた。保険料を払わなくてもいい免除者が3割は出るだろうと踏んでいたんです。その理由は、当時は免除規程が現在よりも低く、収入も少ない人が多かったからです。だから現在の納付率62・8%は何ら驚く数字ではない。強制徴収しなければ年金財政が破綻する状況ではありません」

当初から予想していた程度

の未納率ならば、強制徴収や年金PRは何のためなのか。

「強制徴収や年金PRのために使った年間109億円は、すべて国民の保険料が財源です。年金官僚たちはまったく理由のない仕事を作っているわけです。というのも年金官僚が自由に使える財源を確保するためです。仕事がなければ年金行政を厚生労働省が行う必要がなくなり、年金財源を奪われてしまう。年金財源さえ握っていれば、自分たちが住む豪華住宅も年金保険料から支出することが可能だからです」(前出・岩瀬氏)

現在、国会で年金制度改革案が審議されているが、審議のなかで社会保険庁職員の住宅37カ所の建設費として66億円の保険料が流用されていたことも明らかになっている。

人気タレントを使って国民年金保険料の納付をアピールするのもいいが、厚生省と社会保険庁は信頼回復のためにまず自らの襟を正すべきだ。今回の江角問題は、彼らがいかにいい加減な仕事をしているかを自白の下にさらした。国民年金への信頼は上がるところか、地に墜ちた。